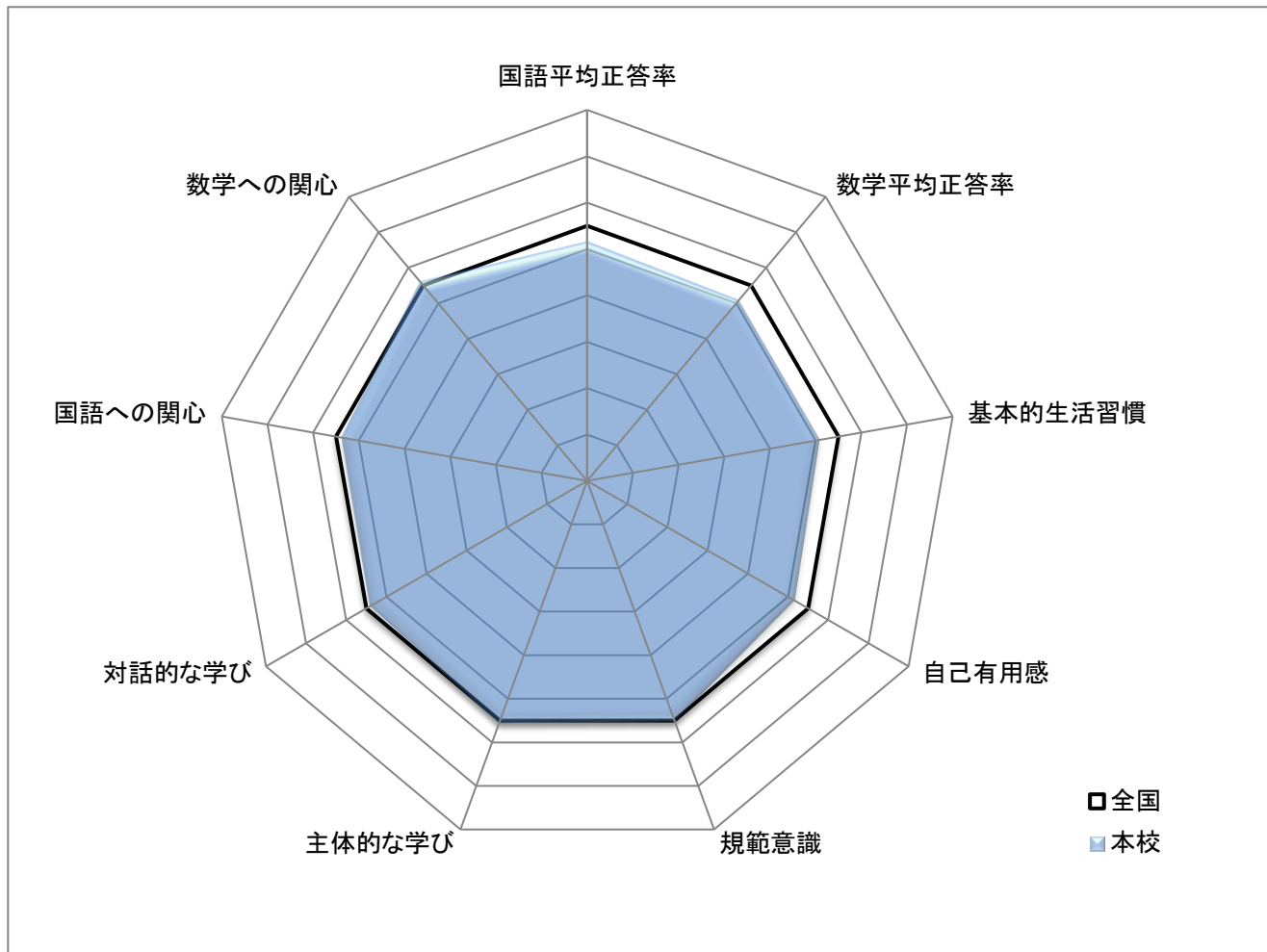


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

全国の国語と数学の正答率を本校と比べると、やや下回っている。また、問題形式において、国語の「記述式」の問題に対して、正答率がやや低い。国語科では漢字や古典など、数学科では、関数と図形の項目の基礎的・基本的な知識の習得が課題である。自己有用感、やや下回っているが、数学への関心、国語への関心の肯定的回答は、全国平均である。

《授業改善のポイント》

明るく楽しくそして規律ある学校生活の中で、主体的・対話的な学びをさらに推進する。また、各教科で主体的な学びを重点的・系統的に実践していく。国語科では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、教材を読み解き、自分の考えを表現できる実践的な力を身に付けるような授業計画を作成する。数学科では、生徒一人一人に応じた指導を心がけ、協働学習を取り入れるなどの工夫をして授業を充実させる。

《チャートの特徴》

・国語・数学では、平均正答率が平均からやや下回っている。国語・数学への関心については、全国平均なみの肯定的回答率である。  
 ・また、全国の肯定的回答と比較して、対話的な学び、主体的な学び、規範意識は平均並みである。  
 全国の肯定的回答と比較して、基本的な生活習慣 自己有用感については、やや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒の基本的な学習習慣は、家庭と学校とが一体となって確立する。その上で基礎的・基本的な学力を高めるようにする。保護者会や三者面談などで家庭学習の大切さや生活習慣・生活リズムの重要性を呼びかけ、さらに学力の定着を図っていく。